

●春日部市民文化講座（第26回）

◆日 時：2018年6月13日(水) 10時（ぼぼら春日部4階会議室）～11時

◆テ ー マ：講演「侘び茶と音」

講師：金子圭子さん（表千家茶道教授、教会音楽家）

◆ゲスト紹介：1947年、山口県生まれ、柏市在住。ピアノ・教会音楽を学ぶ。表千家教授。ユスト高山右近とキリシタン大名に感銘を受け、お茶と祈りの日々を過ごしている主婦。



■母の背中を追って

私の母は既に故人となりましたが、カトリック教人でありお茶を表千家で嗜んでおりましたので、その環境の中で、母の背中を見て私は育ってまいりました。そして信仰をいただいたのは若い時でしたが、茶の湯に本当に目覚めたのはとても遅く、私が50歳になった時でした。山口の実家に戻って母の下で自分の歩んだ日々を思い起こして過ごしていました。実家には、母が教えていたお弟子さん達が入り出し、私も自然と茶室に座るようになりました。母は「祈る茶の湯、茶の湯は祈るよう」と私にだけこそっと言っていました。その言葉が私にも何かとても深く響くものがありまして、私も茶の湯を究めてみようと思うようになりまして、一大決心をいたしまして、そこから厳しい修道の日々が始まりました。一旦やると決めたら何が何でも究めなければと、明けても暮れてもお稽古の日々でした。ピアノのレッスンは1日に4時間も5時間も行いますので、茶の湯の稽古もそれと同じ感覚で取り組みました。茶の湯にのめり込んだのです。そして、その道からは足が抜けなくなりました。音楽と茶の湯を両輪としてできれば良かったのですが、私はそれほど器用ではなかったもので、当時は茶の湯だけにのめり込んでいきました。

■茶室における音の体験

ある時、炭点前を終えて一人で茶室に座っていると、釜の音の変化がとても気になりました。どんどんエネルギーが吹き込まれていくように感じられ、大げさですが家族を失った私に対して「生きよ、生きよ」と言っているように聞こえました。釜の微音を西洋のものではなく、日本文化独特のものとして捉えようとしている自分に、その時気づきました。お茶を入れるのにちょうど良い温度に鳴り出す釜の松風（まつかぜ、しょうふう）が、聖書の中に出てくる風も神の息とか息吹とか霊とか申しますが、そういうものが私の中でオーバーラップした瞬間でした。

■茶の湯における音

茶の湯は音とは関係ないものと思われがちですが、実は大いに関係するのですね。見えないもの、聞こえないもの、不動のものを感じ取ってこそ「侘茶と音」になるのだと申し上げておきましょう。茶の湯は釜の音で進行していくことを、私は堀内宗心宗匠から教えていただきました。ここで皆様と一緒に考えてみたいと思います。茶事の時にある音がたくさんあると思いますが、皆様はどのように考えているのでしょうか。戸の開け閉め、座掃き、水張り、蹲踞の音、絹連れの音、炭の音、喚鐘（かんしょう、合図をするためにならず鐘）の音、茶筌で茶を点てる音、懐石の箸の音などさまざまな音がありますが、音が茶事を進行していく中でとても大切な役割を持っているのです。心を落ちつけて耳を澄まさないといけません。それでは、そういう音が指し示すものは何かというと、私には到底指し示すことはできませんが、自分の体験から一つだけお話ししたいと思います。それは私が35年携わっている「グレゴリオ聖歌」における「間」とひびきです。

■グレゴリオ聖歌にみる侘茶

私は長いこと音楽大学でピアノを専攻しておりましたが、ほとんどがバッハ以降の作品でした。そして、音楽の原点を探そうと思った時に出会ったのがグレゴリオ聖歌であり、調べていく中で、グレゴリオ聖歌が西洋音楽の原点であると確信しました。グレゴリオ聖歌は、アカペラで、無伴奏で拍子もありません。ただあるのは神の言葉だけです。そして、お手元にお渡ししたようなものが楽譜です。4本の線が入った楽譜は新しいものです。上のほうに見られる髭のような線が“ネウマ(Neuma、ギリシア語)”と言って昔からあった楽譜です。この“ネウマ”は音の高低を表していますが、指揮者の手振りによる表現の仕方と同時に神の言葉の響きかたを表しているものです。最初の音の高さも決まっておられません。ですから、最初の高さから音が上下して最後まで歌われます。グレゴリオ聖歌は、音楽と言うよりも、神の言葉を響かせる息の音であり、祈りの音と言えます。私は道であり、真理であり、復活であり、命であるということを繰り返し繰り返し歌って、人生の音がお互いに響き合って、心が通い合って一座を共にするところ、私は「侘茶」を見るのです。



* レイニエム Requiem はもっとも古いものです（10-11世紀にみられる）
 図例の音階の上下に書かれているものは、古いネウマ（ギリシア語）を指します。
 指揮者の手の振りをあらわし、音の上下り下がり方がわかります。

金子さんの求道者としての強い魂をとともに、心に響く言葉を聴くことができました。